

企業名	環境テクノス株式会社		
企業代表者名	代表取締役社長 鶴田 直		
保有する環境技術	環境測定・分析（水質、土壌、大気、騒音・振動等）、自然や生活環境に関わる調査技術をベースに、環境アセスやコンサルティング、研究開発など幅広い環境関連技術を保有		
所在地	福岡県北九州市戸畑区中原新町2番4号		
HPアドレス	https://www.kan-tec.co.jp/		
①アジア低炭素化センターとの連携実績			
期間	対象都市（国名/都市名）	概要	
H21年4月 ～ H24年3月	中国・大連	北九州大連市の連携による循環型都市協力推進事業	事業を終了した
H26年6月 ～ H27年3月	中国・上海	中国における汚染土壌オンサイト分析技術の実証	事業を終了した
R1年7月 ～ R2年3月	タイ・バンコク	タイ国における土壌汚染対策の市場調査 (JETRO/インフラシステム輸出に向けた現地調査・情報普及事業)	事業を終了した
R3FY採択済	タイ・バンコク	タイ国土壌・地下水汚染対策事業案件化調査 (JICA/中小企業・SDGsビジネス支援事業)	FS調査継続中
②当該企業の国内／国外実績			
<p>(1)各種測定、分析（水質、土壌、大気、騒音・振動等の計量証明や作業環境測定等） 50年近くにわたり環境測定・分析業に携わっていることから、法規制や技術等に関して多くの知識・経験を有しているとともに、幅広い環境ニーズ（水、大気、土壌、騒音など）に対応する事ができる。</p> <p>(2)環境調査（生活環境調査や自然環境調査）、環境アセスメント、コンサルタント 分析だけでなく、生活環境調査や動・植物調査、生態系調査なども自社で対応する事が可能であるとともに、近年では生物多様性や地球温暖化などに関する調査も企画、実施している。また、分析から調査、企画まで幅広い技術者を有していることから、原因の究明からコンサルティングも得意とする。</p> <p>(3)研究開発 大学や業界団体、学会などと連携して多種多様な研究開発、特許の取得を行ってきた。九州工業大学と連携した生ごみからのバイオプラ開発や日本分析化学会と連携した環境標準物質の作成などがある。</p> <p>(4)海外事業 国内における経験、実績をもとに、海外でも分析やコンサルティングを行っている。主には中国で、大連に合弁会社を設立。中国の実績を生かして、タイなどの東南アジアでも事業展開を図っている。</p>			
③海外展開方針			
方針	日本で培った経験を活かしアジア地域での環境貢献と更なる事業の拡大を目指す		
実施体制の希望	<input checked="" type="checkbox"/> 現地で事業実施 <input type="checkbox"/> 販売のみ	<input checked="" type="checkbox"/> 現地企業と合弁 <input type="checkbox"/> 日系企業と合弁	<input type="checkbox"/> 単独
展開先希望 (国、都市、地域など)	特になし（パートナー次第）	コンサルの活用希望	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
展開分野（検討・予定含む）	環境測定・分析、環境調査、コンサルティング		

④海外のニーズに対応可能と考えられる技術・ノウハウ

※ 対応可能規模、独自性・競争優位性、将来展望等

○環境改善に関するコンサルティング

東アジアや東南アジアなど環境汚染対策を課題としている国は多くあるが、環境改善技術だけではなく、その周辺の法規制の整備や、適切な分析や調査に基づく原因の究明や解決策の検討も非常に重要なファクターである。環境テクノス㈱は、国内において公害問題が課題であったところから環境分野に携わっていることから、環境測定・分析技術だけでなく、法規制の変遷や環境対策技術の進化などの豊富な知見を保有し、これらの経験を生かして、現状の把握や法規制への対応、改善策などについて幅広くコンサルティングを行うことが可能である。また、KICS（北九州環境ビジネス推進会）やK-RIP（九州環境エネルギー産業推進機構）などの環境団体にも所属しており、環境分野での幅広いネットワークを有している。

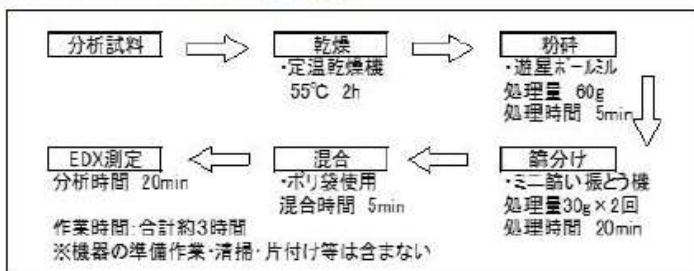
○オンサイト分析技術

幅広い環境分野の中でも、土壤に関しては特に力を入れており、多くの実績を有している。特に、環境標準物質を利用した土壤のオンサイト分析法は国内で特許を取得していたこともあり、特筆すべき技術として、中国や東南アジアでの提案や FS 調査を実施している。オンサイト分析技術を活用することで、オンサイトでの即座の汚染状況の把握が可能であるとともに、その迅速性という効果により、土壤処理や土壤改良などにかかる工期の短縮、工事コストの削減も可能となる。

◆ オンサイト分析測定車



◆ オンサイト分析フロー



○分析対象元素：
Cd、Pb、As、Se（高精度）
Cr、Hg（標準）

※必要に応じた追加機器の搭載で
他の項目についても対応可能

(1) 他社とのコラボ等に
関する要望

環境に関する課題は、幅広いとともに地域性や法規制の違いなども絡んでくる。当社の日本での経験を生かすためには、現地の情報収集や設備の調達などを行う現地パートナーが必要不可欠である。

(2) 当該企業の将来性や
今後の展開に対する期待
(KITA コメント)

企業発足以降の環境問題解決への継続的な取組や、それを支える技術力や保有人材のポテンシャルも高く、今後のアジア諸国の環境問題解決や法整備促進に対する支援機能の発揮が強く期待される。中でも、今回紹介されている「オンサイト分析法」は、今後アジア諸国の経済発展と共に拡大が懸念される土壤や地下水汚染実態の把握において、経験の少ない調査実施者でも迅速かつ一定範囲の精度が確保可能であることから、保有する技術の具体的展開例として注目すべきものである。